マンガ雑誌におけるデートDV描写の分析

○宇井美代子¹・宮前淳子²・寺島瞳³・松井めぐみ⁴・竹澤みどり⁵

(¹玉川大学・²香川大学・³筑波大学・⁴岡山大学・⁵富山大学)

キーワード：デートDV、恋愛関係、マンガ雑誌

Content analysis of depiction of dating violence in comic magazines.

Miyoko UI¹, Junko MIYAMAE², Hitomi TERASHIMA³, Megumi MATSUI⁴, and Midori TAKEZAWA⁵

(¹Tamagawa University, ²Kagawa University, ³University of Tsukuba, ⁴Okayama University, ⁵University of Toyama)

Key Words: dating violence, intimate relationship, comic magazine

目 的

近年、夫婦関係だけではなく、恋愛関係にある交際相手から暴力をふるわれるデートDVが存在することが明らかにされている。内閣府(2012)の調査によれば、10代や20代のうちに、交際相手から身体的暴行、心理的攻撃、性的強要のいずれかのデートDVを受けた経験のある者の割合はそれぞれ、女性が13.7%、男性が5.8%であり、女性の方が男性よりも被害経験のある者の割合が高かった。

恋愛という親密な関係において暴力が生じる原因の一つとして、SEAN(2008)は、特に女子青年にとって恋愛や性についての主要な情報源であるマンガ雑誌に着目し、分析を行っている。分析の結果、マンガ雑誌において、相手のことが好きだからこそ、性行為を強要したり、相手を過度に束縛したりするといったように、暴力行為を愛情表現として許容するような描写が見られることが示された。しかし、SEAN(2008)が分析したマンガ雑誌は限られており、恋愛関係における暴力行為の描写が、マンガ雑誌全体の傾向であるかは明らかではない。そこで、本研究では、日報を通して購入可能であった2010年1月に発売されたマンガ雑誌143冊を対象として、恋愛関係における暴力行為の描写の有無を検討することとする。

方 法

分析対象と分析手続き マンガ雑誌143冊に描かれているマンガ2263編(4コママンガは除く)のうち1061編に、恋愛や性行為を行っているペア(もしくはグループ)が1096組描かれていた。これらの1096組について、心理学を専攻する者5名により、次に示すカテゴリーに該当する描写の出現頻度が評定された。なお、1096組のペアの性別の組み合わせはそれぞれ、男女が940組、男性同士が136組、女性同士が18組、分類不能が2組であった。

分析カテゴリー デートDVの実態調査(松井ら, 2010; 竹澤ら, 2010; 寺島ら, 2011 など)や、恋愛関係における暴力の程度などを評定するための尺度であるCTS2(Straus et al., 1996)などを参考に、デートDV行為を示す53項目と恋愛関係における適応的な葛藤解決のための行為を示す6項目を設定した。本論文では、これらの項目のうち、デートDV行為の項目について、行為者別の評定結果を報告する。なお、同性同士のマンガについては、男性同士の恋愛を描くマンガでの表記方法を援用して、行為者を「攻」と「受」とに分類した。

結 果

デートDV行為の描写の有無 恋愛関係や性行為が見られた1096組のうち590組(53.9%)において、デートDV行為が1回以上描写されていた。男性(攻)と女性(受)の双方のデートDV行為が描かれていたのが213組、男性(攻)から女性(受)へのデートDV行為のみが描かれていたのが243組、女性(受)から男性(攻)へのデートDV行為のみが描かれていたのが134組であった。以上のように、男性(攻)の方が女性(受)よりも、デートDVの行為者として描かれている傾向が見られた。

デートDV行為の描写の内容

設定したデートDV行為53項目のうち、男性(攻)が行った描写が見られたのは46項目、女性(受)が行った描写が見られたのは45項目であった。各デートDV行為について、男女別(攻受別)に描写の有無の割合を算出したところ、5%以上のペアで描写が見られた項目は、Table 1 および Table 2 に示す通りであった。また、9組のペアでは、レイプの後に恋愛関係が開始される描写が見られた。

Table 1 男性(攻)におけるデートDV行為の描写の割合(%)

コンドームをなしで、セックスをする	12.4
相手に大声をあげたり、怒鳴ったりする	8.1
相手に一方的な命令をする	6.7
相手を侮辱したり、ののしったりする	6.7
相手が望んでいないときにもセックスを強要する(ただし、身体的な力は用いない)	6.0
相手をつかむ	5.0

注:N=1096

Table 2 女性(受)におけるデートDV行為の描写の割合(%)

相手に大声をあげたり、怒鳴ったりする	9.7
相手による強制的な性行動に対して、本人は行動として拒絶しているが、本心としては同意していることが分かる	6.4

注:N=1096

考 察

本研究の結果、恋愛や性行為を描いたマンガの半数以上において、デートDV行為が描かれていることが明らかになった。この結果は、デートDV行為の描写が、SEAN(2008)の分析したマンガ雑誌に限られるのではなく、流通しているマンガ雑誌の一般的傾向とも言えることを示している。

また、男性(攻)の方が女性(受)よりも、デートDVの行為者として描かれている傾向が見られた。デートDV行為の内容をみると、男性(攻)と女性(受)とで共通して多かったのは「大声、怒鳴る」という相手を威嚇する心理的攻撃の描写であった。また、男性(攻)が行為者の場合には、「一方的な命令」「侮辱する」という相手を劣位におこうとする心理的攻撃や、「セックスの強要」「コンドームをしない」という性的強要や、「相手をつかむ」という身体的暴行という多岐に渡るデートDV行為が描写されていた。一方、女性(受)が行為者の場合には、「相手からの強制的な行動を本心では同意する」や、レイプ後に恋愛関係を形成するといったように、デートDV行為を受け入れる姿が描かれていた。以上より、マンガ雑誌では、恋愛関係において、男性(攻)はデートDVの行為者として、女性(受)はデートDVの被害者というよりは受容する存在として、それぞれ描かれていることが明らかにされた。

ただし、本分析ではマンガ雑誌の読者層やペアの性別や年齢層などを区分した詳細な分析を行っていない。これらの詳細な分析をすることによって、マンガ雑誌の特徴を明確に捉えたと期待される。